別記様式第２号

平成３０年１１月２５日

行政視察報告書	（会派の場合）会派の名称	日本共産党
	代表者氏名	近藤　昇一　㊞
	（会派以外の場合）議員氏名	窪田　美樹　㊞

参加議員		
	近藤昇一　議員	議員
	畑中由喜子　議員	議員
	窪田美樹　議員	議員
	議員	議員

視察先	
	(1)　長野県　安曇野市
	(2)　長野県　小諸市
	(3)

視察目的（項目）	
	(1)　協働のまちづくり推進及び計画
	(2)　長期学校改築計画策定と学校改築市民懇話会
	(3)

【調査内容・概要】

長野県小諸市の取り組み

小諸市は、小学校６校中学校２校合わせて８校、校舎は築５０年が２校、４０年を超える校舎が３校と超長寿命化が必要な時期を迎えています。また、児童・生徒数は昭和６０年６０００人をピークに、現在３２００人と半数近くになっています。

小諸市では　「長期学校改築計画策定」に向け市民の声を聞き構築していました。それまでの流れは平成２６年「学校給食の在り方についてのワークショップ」から始まり、２７年「学校改築計画づくりに向けての懇談会」を、２８年「学校改築市民懇話会」を開催しています。段階を踏み、学校施設・生徒数などの現状を市民が話し合うことで住民周知や意識を持ってもらうことを重ねていました。

「学校改築市民懇話会」では、「基本的なデータの不足」「何らかの具体的なたたき台の提示が必要」の２点が課題として顕在化してきました。説明者は「真っ白ではだめということがわかりました」と言われましたが、葉山の状況をみると真っ白から始めたことが、住民参加のまちづくりに繋がると感じました。

「学校改築市民懇話会」の声を受け、H２８．１０に市民学習会を開催し、データに基づいた基本的な状況の確認・共有や計画策定の進め方の意見交換を行い、それをまとめて「長期学校改築計画検討会」が発足し「たたき台を提示する組織」として動いています。①少子化に進展に対応した小中学校の在り方②小中学校の規模③小中学校の配置及び校区を」所掌事項とし、何より「小諸市で育つ子供たちにとってより望

ましい学校の姿はどうあるべきか」という観点を最優先として検討しています。メンバーは学校長や大学教授、各学校の PTA 代表、幼稚園・保育園の保護者、公募の住民で、まさしく住民・関係者の声を聞きながら進める会として、２９年から１年間、会議の他、先進地視察や中間報告会を実施。教育委員会は、議事録作成や資料提供に事務局として参加にとどまり、意見は出さなかったといいます。３０年１月には検討結果をまとめた「提言書」を教育委員会に提出しました。

「提言書」には、今後の進め方から再編校開校まで考えられていますが、年月は区切られていませんでした。しかし、丁寧な取り組みが必要としながらも、影響が広範囲に及ぶ政策問題であり、いたずらに時間をかけることは結論を得ることが困難になる可能性が高くスピード感の必要性を上げ、だからこそ、初期段階での関係者や住民等と合意・共有を進めることの重要さが挙げられていました。

現在は、学校教育・行政・建築等、各分野の専門家で編成する「学校再編検討委員会」に委ねられていますが、住民への懇談会も設け「どのような内容・結果でも後戻りだけはしないで」という声を受けていると言う事でした。

少子高齢化や社会的人口減少の中、今後の葉山に大規模改修で統廃合が必要かどうかは、多面的に時間をかけた話し合いが必要です。しかし、これまでの葉山町の様々な事業の進め方は、住民の声を聞いたとは思えないことばかりです。公共施設大規模改修は、影響が広範囲に及ぶ政策問題であり、ただ時間をかければ良いものではなくスピード感も必要です。だからこそ、初期段階での関係者や住民等と合意・共有を進めることが重要となり、町へ、積極的な取り組みを求めていく必要があると感じました。